

ただ今、 道産子修行中!

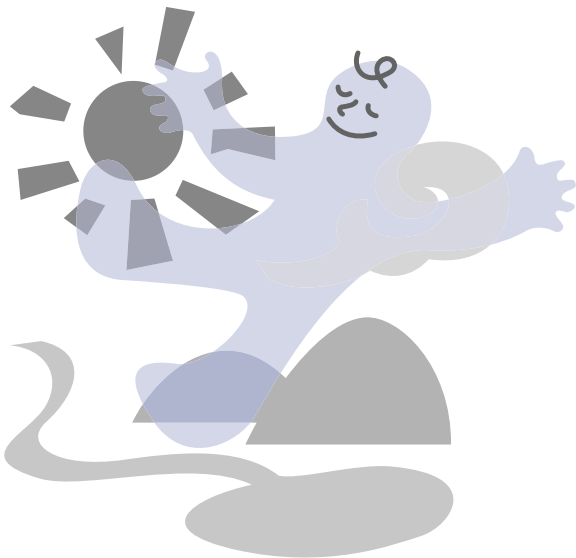
まさごのりこ北海道魅力発見録

~その2~

ロハスな北海道のススメ

真砂 徳子

フリーアナウンサー



「ろはす…?」

ハワイアンの挨拶か、はたまた流行りのデザートか、見知らぬ国の英雄かも?いや、伝説の珍獣に違いない!…まったく、その言葉を初めて耳にした時には、いったい何を意味するのやら、見当違いな想像で、頭の中がいっぱいになったものだ。

「ロハス(LOHAS)」は、英語のLife Of Healthy And Sustainabilityの頭文字を連ねた略語である。翻訳すれば「健康と環境に配慮した生活様式」となり、もともとは、90年代後半、アメリカの市場調査をしていた学者が、伝統を重んじる保守派と進取の気性に富む改革派いずれにも属さず、これまでの消費者像とは異なる新しい価値観の人たちが登場してきたことに気づき、彼らのライフスタイルを総称して「ロハス」と名付けたことが始まりなのだそうだ。具体的には、Sustainable economy/サステイナブル・エコノミー(持続可能な経済)、Healthy lifestyle/ヘルシー・ライフスタイル(健康的な生活様式)、Alternative healthcare/オルタナティブ・ヘルスケア(新しい健康管理)、Personal development/パーソナル・ディベロプメント(自己啓発)、Ecological lifestyle/エコロジカル・ライフスタイル(環境に配慮した生活様式)の5つの特徴が挙げられ、こちらもその頭文字をとり「SHAPE」と名付けられている。アメリカのロハス信奉者は、成人人口の30%にも及び、そのビジネス規模は、2003年で4400億ドル、日本円にしておよそ50兆円にもなり、これはアメリカ経済の4.2%にあたるという。

その「ロハス」が海を越え、今私たちの暮らしにじわじわと浸透しつつある。「ロハスなファッション」「ロハスな企業」「ロハスなサービス」「ロハスな生き方」「世界で1番ロハスな島」…日本の新聞、雑誌、テレビ等で、今日も踊る「ロハス」の文字。ロハスが形容するものは多岐に渡り、昨年6月には、日経流通新聞の“2005年上期ヒット商品番付”で、西の横綱として取り上げられた。2006年版の『現代用語の基礎知識』や『imidas』でも紹介され、ある調査によれば、日本人のロハス認知度は今や45%を超えているというのだ。

だが、「LOHAS」やら「SHAPE」やら、横文字を駆使した説明だけでは、「健康と環境に配慮した生活様式」を到底理解できず。ここは、論より証拠。体当たりレポートでならしたフットワークの軽さを生かし、遅ればせながら私も、「SHAPE」に倣って、身近なところから「ロハス」を始めてみることにした。

まずは「ロハス」な健康管理。流行のヨガなるエクササイズに勤しみ、特殊な呼吸法とちょっとおかしなポーズで心身を鍛えたりもしているが、とりわけ爽快なのは、アウトドアスポーツだ。実は小学生の頃、キャンプで火傷をして以来、アウトドアと名のつくものには、なるべく近づかないようにしていたが、北海道でのテレビ取材では避けられぬと観念し、しぶしぶ始めたのが運のつき。清々しい空気を吸いながらのクロスカントリーでは、原生林の中を歩きながら野鳥や樹木を観察する。清流に身を委ねるカヌーでは、水上から、いつもとは違う視点で陸地を眺める。いずれも、都市の生活ではできない経験から、環境について考える機会を持つこともでき、室内での運動とは比べ物にならない程、日頃のストレスを解消してくれるのだ。

「ロハス」な食材選びにも気を配る。職業柄、道内各地の生産農家を訪ねる機会も多い私。そこで丸かじりしたもぎたてのとうもろこしやキャベツの濃厚な味わいと言ったら！それを知ってからというもの、スーパーマーケットの有機野菜売り場や道の駅の産地直売を表示する看板等は、見逃さないようになった。料理は不得手ながら、愛飲の野菜ジュースくらいは、なるべくオーガニック野菜でつくりたいと、買い物の時間が無い時だって、インターネットを利用し、契約農家から直接購入するこだわりようなのである。そういえば先日、道南の七飯町で収穫された越冬人参が、雪融けを待ち、ようやく我が家に届いた。土つきのままの見事な人参を水洗いし、皮もむかずにジュースに投入。色も香りも最高で、その日のジュースは、これまでに無いコクと甘みがあり、おかわりした程、本当に美味しかった！

スローフード、地産地消、シンプルライフ…等の「ロハス」に関連するキーワードは、時代を捉

えた大切な概念。ここ最近、にわかロハスな私ではあるが、適度に体を動かし、美味しく安全で安心な食べ物を口にするのは確かに気持ち良く、微力ながら、地球の環境問題の改善にも貢献している、との想いも巡り、「ロハス」の実践は、健全な心身の維持にとどまらず、思いがけず、得難い感動ももたらしてくれた。

何よりも北海道に住んでいる私たちにとって、「ロハス」は身近だ。目の前にある豊かな自然で体を動かしたり、隣接の農村や漁村の産品に目を配ることは、そう手間のかかることでもない。道外に住むロハスな人たちには随分とうらやましがられそうな話だが、これこそ、まさに「ロハス」な要素を十分に備えた「北海道」で暮らす、道産子の特権である！

「ロハス」は、80年代に流行した「Yuppie」や、「カウチポテト族」同様、言葉を宣伝に利用し、既存の商品やサービスを売ろうとする便乗商法だと、慎重に捉えている人たちも少なくないそうだが、道産子修行中の身としては、「ロハス」の是非にこだわるよりも、この潮流にうまく乗って、今にも増して、北海道暮らしを満喫するぞ！



profile

真砂 徳子 まさこのりこ

フリーアナウンサー。

埼玉県出身。明治大学文学部卒。新潟テレビ21アナウンサーを経て、北海道に移住。ニュース、バラエティ、情報・教養番組などテレビを中心に幅広く活躍。2005年独立し、真砂事務所を開設した。<http://www.masagonoriko.com/>
